

# 河津川の挑戦

山田紘子<sup>1</sup>・島崎和広<sup>2</sup>

<sup>1</sup>静岡県交通基盤部管理局 政策監（〒420-0846 静岡市葵区追手町7-6）

<sup>2</sup>河津町役場 産業振興課（〒413-0595 賀茂郡河津町田中212-2）

本論文は、「河津川の挑戦」と題して、植栽から45年以上経過し古木化している桜について、治水安全度を向上させながら、今後、益々増える観光客に対応した、新たな桜並木の創出を、地域住民を含めて検討している経過を報告するものである。

キーワード：まちづくり、河津川、河津桜、植樹基準、津波対策

## 1. はじめに

河津川は、天城山脈に源を発し、賀茂郡河津町を貫流しながら大鍋川、河津谷津川等の支川を合わせて南東方向に流下し相模湾にそそぐ、流域面積80.8km<sup>2</sup>、幹川流路延長16.4kmの県が管理する二級河川である。

河津川の河口から約4.0kmの堤防沿いには、早咲きとして知られている河津桜が植樹されており、開花時期の2月～3月に行われる河津桜まつりには、100万人近い観光客が訪れる桜の名所となっている。

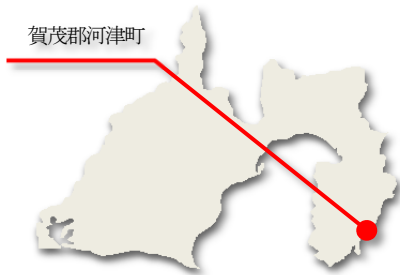


図-1 賀茂郡河津町の所在地

## 2. 河津桜の歴史と魅力

河津桜は、昭和30年に原木が発見され、昭和47年以降に、早咲きの「大島桜」と「寒緋桜」の自然交配種であることが推定された“新種の桜”である。昭和50年に「町の木」に認定されて以来、町・地区や各種団体により、河津川河口付近の堤防等に植栽が始まり広がっていった。

一般的なソメイヨシノと比べて開花時期が早く、「一足早い春を感じる」「河津桜と青空のコントラストに魅力を感じる」ため、主に関東圏や最近では海外からの観光客が訪れている。



写真-1 河津桜



写真-2 河津川沿いの河津桜

### 3. 河津桜と河津川の課題

#### (1) 河津桜の課題

河津川沿いには、846本の河津桜が植栽されており、河口へいくほど植栽年数が古く、一番古いもので、植栽後45年以上経過している。河津桜守人（※1）による毎木調査（757本）の結果、全体の約7割に上る521本において、樹勢劣化や病斑、枝の障害があることが判明した。

※1 河津桜を見守り、適切に手入れしていく団体を育成していく人達。

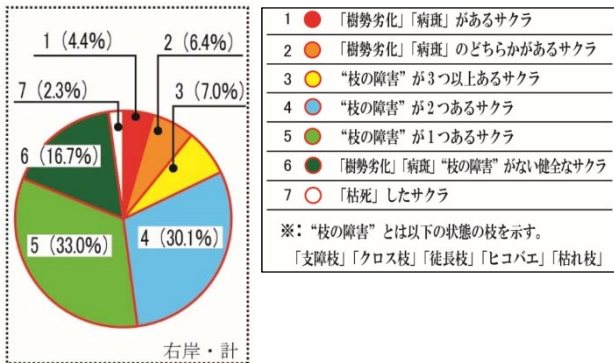


図-2 毎木調査結果（右岸）

また、県で実施した根系調査の結果、次のような生育状況が確認された。

- ・「巻根」根域を制限され、樹幹に巻き付き幹を圧迫している状況
  - ・「細根」極端に環境が悪い箇所において見られ、自分の生長を制限する状況
  - ・「根の屈曲」桜同士の密植により、お互いの根を避けて生長している状況
  - ・「腐朽痕」傷や土壌からの菌に侵されている状況
- このことから、傾斜地で密植している河川堤防は河津桜が生長していく環境にとっても、適していないことが判明した。

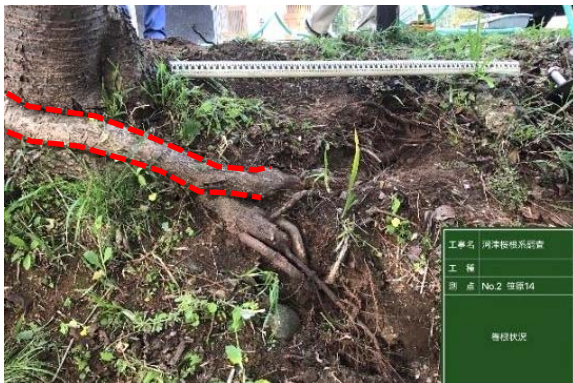


写真-3 根系調査「巻根」

#### (2) 河津川の課題

##### a) 治水対策

河津川沿いの河津桜の多くは、河川法に基づいた植樹基準（「河川区域内における樹木の伐採・植樹基準について」平成10年6月19日）を満たしていない。植樹基準を満たしていない場合、降雨時や暴風時に堤防の弱体化を招き、破堤する等の治水安全度の低下を招く恐れがある。

この基準を受けて、河川堤防に植樹されている河津桜の管理については、県と町で「二級河川河津川における河津桜維持管理指針（平成20年11月）」及び「二級河川河津川における河津桜維持管理行動計画（平成23年10月）」を策定し、“状況の把握”“日常点的作業”“情報共有”の3本柱の中で、県・町・商工会・観光協会・地域それぞれの役割を明確にしている。

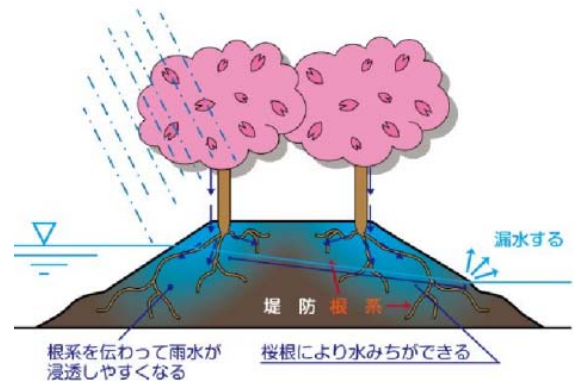


図-3 植樹基準を満たしていない桜が堤防に与える影響

##### b) 津波対策

平成25年6月に公表された「静岡県第4次地震被害想定」では、河津川河口部に襲来が予想されるレベル1津波高さは、T.P.+5.5mとなっており、現況施設より60cm～1.4m程度高さが不足している状況にある。

また、河口から約200～300mの堤防沿いは、液状化対策の実施が必要となり、河津桜並木と重複する。



図-4 レベル1必要堤防高と現況堤防高



#### 4. 課題のまとめと対応手法

##### (1) 課題のまとめ

今後、現状のままであれば、堤防沿いの河津桜は寿命を迎え、今の景観を永遠に保つことは出来なくなる。また、今後の治水対策や津波対策を実施していく上でも、既存の桜並木を何の計画性も無く伐採することは、住民の納得を得難い。

そのため、「古木」「治水」「津波対策」への課題を総合的に解決していく必要がある。

##### (2) 課題への対応手法

課題を総合的に解決するため、平成29年2月14日に行政・有識者・地元関係者で構成される「河津川流域における河津桜並木景観検討会」を立ち上げ、河津川流域の治水安全度や桜の生育環境の向上を図りつつ、河津町の観光振興等に寄与する行動計画を策定した。

会の中で、地元住民の意見を集約する必要があるとの提案を受け、平成29年10月11日・12日の2日間で、河津桜並木ワークショップを開催した。2日間合わせて34名の住民に参加いただき、“河津桜の更なるブランド力の向上と継続”と“今後、益々増加する観光客への対応”を目標に、「河津桜を中心とした現状の課題」と「目標に向けた対策」について、ワークショップを実施し、参加住民から様々な意見を集約した。



写真-4 ワークショップの様子

表-1 ワークショップでの主な意見

桜並木に関する意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>河津川沿いだけでなく、町全体で桜並木を考える。</li> <li>桜の受け入れのためのスペースを、川の背後地や桜公園を整備し、確保する。</li> <li>古木となっても大切な桜であるため、なんとか専門家の助言も受けながら、移植ができないか模索する。</li> </ul>
その他意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>桜のビューポイントへの誘導が必要。ビューポイントからの景観を保つため、広告看板への制限や無電中化も必要。</li> <li>交通渋滞には、中心市街地に駐車場を設け、パーク&amp;ライドを活用する。</li> </ul>

また、観光客の意見も集約するために、平成30年2月から3月にかけて行われた『河津桜まつり』において、2月17日から25日の全9日間アンケートを実施した。

併せて、河川空間のオープン化もPRするため、河川敷内に休憩スペース及び気軽に意見が書き込めるボードを設置して、広く意見を募った。

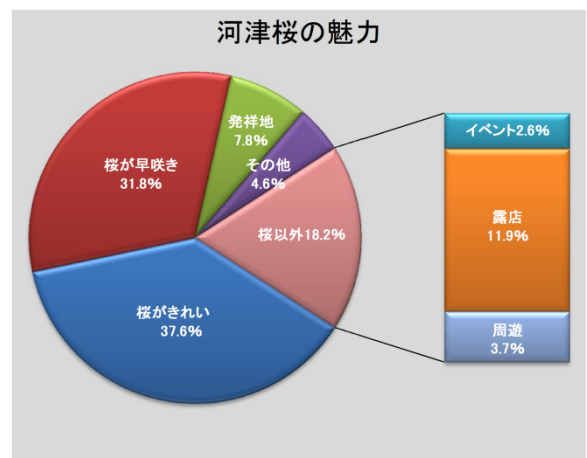


写真-5 アンケートの様子



写真-6 河川敷内の休憩スペース

表-2 アンケート結果



併せて、観光客の求める景色をSNS投稿写真で投稿日・種類・位置情報を整理したところ、昨年の河津桜ま

つり時に「#河津桜まつり」で投稿された写真の中には、「花の（アップ）写真」や「桜並木と河原の風景」が多くを占める中、「付近の山からの景色」や「花と伊豆急行線」等、観光客の求める視点場も多様であることが分かった。



写真-7 SNS投稿写真 (H29.2~3)

## 5. 課題への解決策

### (1) 観光客の受皿を『線』から『面』へ

河津桜まつりのメイン会場である河津川沿いは、現在観光客で飽和状態である。そのため、集客容量・滞在時間を増やすことや新たな桜並木を考える上でも、町全体を周遊するような面的な考え方が必要となる。河津川沿いの線上から、町全体の面的にすることで、より多くの観光スポットに立ち寄って貰うことができ、河津川沿いから町全体の魅力を感じてもらえることができる。

また、SNS投稿写真の整理から、今後、新たな視点場をつくることで、様々なネットワークの形成の促進が期待できる。



写真-8 河津桜祭りの混雑状況

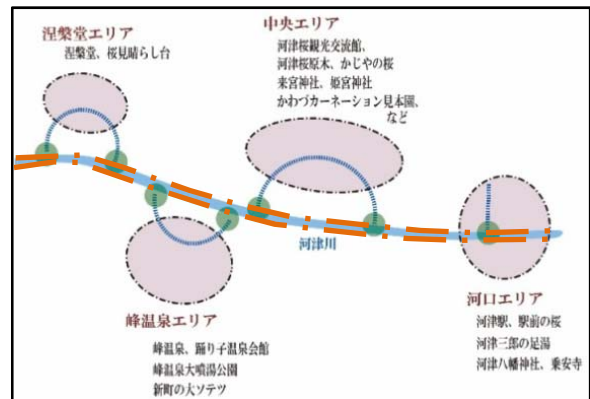


図-5 町全体の周遊ルート（案）

### (2) 新たな桜並木の形成

現在の河津川沿いの桜並木は、街中や河川背後地へ、新たな桜並木の形成を検討していくことが必要である。

特に、河津川の背後地は、既に植栽帯を整備している場所や建物が立地している場所、農地等、様々な土地利用がされている。そのため、町全体の中でも河津川沿いをメインとする場所においては、桜のボリュームを下げないように背後地に「2列・千鳥植栽」での新たな桜並木を形成することを検討している。

また、川沿いの美しい河津桜並木の景観も出来るだけ鑑賞期間を長くするため、引き続き既存桜の適切な維持管理を実施していくとともに、川表の桜については、伊豆縦貫道の発生土を活用した、背後の農地かさ上げによる対応も検討していくことにより、治水安全度向上にも寄与できるようなまちづくりとしていきたい。

町全体の桜計画策定については、桜の植樹年代や全体のネットワーク、治水・津波対策の整備必要区間を考慮しつつ、町全体の桜のボリュームを確保しながら決定していく。

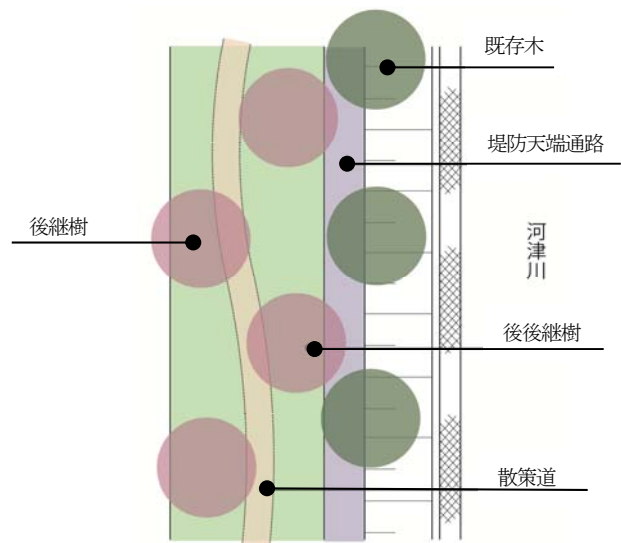


図-6 新たな桜並木形成への経過（河川背後地：平面）

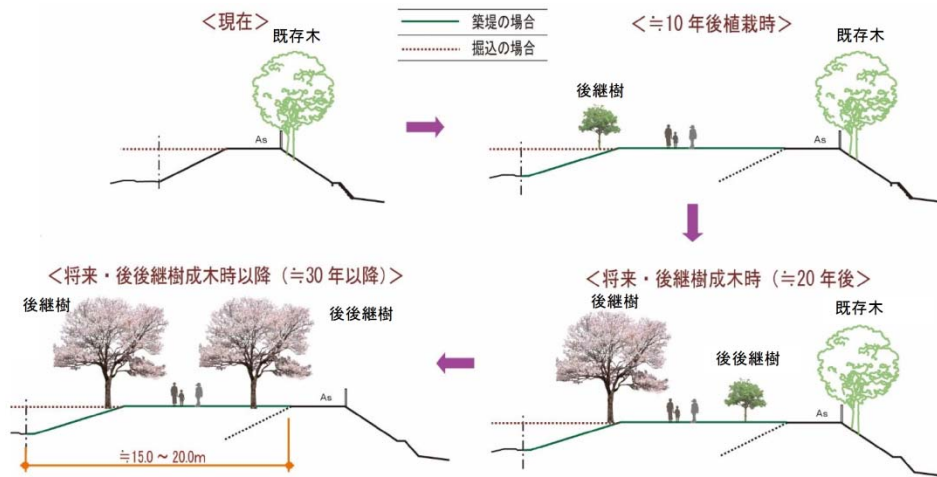


図-7 新たな桜並木形成への経過（河川背後地：横断）

### (3) 更なる河津桜のブランド化

現在の河津川沿いの桜を計画的に移行していくためには、既存の桜の伐採や移植等も必要となるが、継続には費用の課題もある。

そのため、伐採した桜をブランドとして製品を作る等、河津桜のブランド化をより一層高めるためにも、桜の利活用に向けた仕組みづくりが必要となる。

謝辞: 検討会立ち上げに際し、ご指導いただいた福井県庁の皆様（「足羽川づつみ協議会」）、この紙面をお借りして厚く感謝を申し上げます。

## 6. 将来の河津桜並木とまちづくり

### <目標>

気がつかないうちに、  
河津桜並木が町全体へ広がっている

川沿いだけでなく、町全体へ河津桜並木の形成が広がることにより、河津町内の魅力ある観光地へ多くの人が足を運ぶ方向へ繋がっていきたい。

## 7. おわりに

河津町へ100万人近い観光客を呼び込むこの“河津桜並木”の多くは、住民の方々が植えたものである。この素晴らしい景色は、何十年も前の方々からの大切な送りものであり、次の世代へ繋げていくためには、今から私たちが努力していくことが必要である。より良い河津桜並木の形成と河津町の観光振興にも寄与できるよう、引き続き検討を進めていきたい。